

おもちゃで笑顔に

届け
京滋から

東日本大震災で心の傷を抱えた被災地の子どもたちにおもちゃを贈ろうと、支援を呼びかけていた宇治市榎島町のNPO法人「アジール舎」に、全国各地から数千点のおもちゃが寄せられた。来週中に被災した宮城県の児童福祉施設などに送る予定で、31日、市民らが仕分け作業に取り組んだ。

集まったおもちゃを仕分けする市民たち(宇治市榎島町ころぼくろの家)



苦難、ともに歩もう

全国から数千点 被災地の子どもへ

アジール舎は、発達にさまざまな問題を抱えた子どもたちの療育に取り組んでいる。臨床発達心理士でもある亀口公一理事長が「被災地でも、子どもの発達におもちゃは必需品」と支援を計画した。

ホームページなどで呼びかけたところ、市民のほか、他府県や海外からも支援の申し出が続々と寄せられた。おもちゃ作家からも寄付があった。

宇治のNPO 仕分け作業

り、ぬいぐるみやブロック、積み木、ミニカーなど10日間で数千点のおもちゃが集まった。

この日は、地域の民生児童委員らが仕分けし、約50箱におもちゃを詰めた。亀口さんは「たくさんの方の思いが詰まったおもちゃを届け、子どもたちの笑顔を取り戻したい」と話している。おもちゃの受付は31日でいったん終了した。

(小坂綾子)